

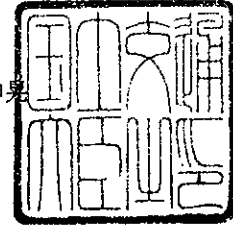


認定書

国住指第1276号
平成 16年 9月 24日

株式会社ノザワ
取締役社長 野澤 俊也 様

国土交通大臣 石原 伸晃



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号及び同法施行令第107条第一号(はり:2時間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FP120BM-0118

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

押出成形セメント板/繊維混入けい酸カルシウム板合成被覆/鉄骨はり

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

押出成形セメント板／繊維混入けい酸カルシウム板合成被覆／鉄骨はり

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
鉄骨はり	断面の寸法：H-400×200×8×13mm以上
壁	厚さ：60mm以上 幅：600mm
被覆材	厚さ：25mm以上
壁と鉄骨はりの間隔	250mm

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様
鉄骨はり	断面の形状：H形鋼 鋼材の種類：①、②又は③ ①一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101） ②建築構造用圧延鋼材（JIS G 3136） ③溶接構造用圧延鋼材（JIS G 3106）
壁	材料：押出成形セメント板（ECP）（JIS A 5441） 組成：普通ポルトランドセメント 50～60質量％ けい酸質原料（けい砂） 30～45質量％ 無機繊維（ガラス繊維） 0～4質量％ 有機繊維（パルプ） 2～6質量％
被覆材	材料：繊維混入けい酸カルシウム板 目地間隔：1000～3050mm 組成：けい酸カルシウム 75±10質量％ 無機系添加材 20±7質量％ （セメント、金属酸化物、金属水酸化物） 無機繊維質 5±3質量％ （ガラス繊維、ロックウール） 密度：0.25～0.45Mg/m ³ 含水率：5.0質量％以下 取付：①又は② ①直張（図1及び図4に示す。） ②浮かし張補強材（A）（図2及び図5に示す。） 及び浮かし張補強材（B）（図3及び図6に示す。）

4. 申請仕様の副構成材料：
申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様
シーリング材	仕様：水平目地 材料：ポリウレタン系 (JIS A 5758) 質量：100g/m
	仕様：たて目地 材料：変成シリコーン系 (JIS A 5758) 質量：200g/m
バックアップ材	材料：発泡ポリエチレンフォーム 寸法：18×9mm
充てん材	材料：ロックウール保温板 (JIS A 9504) 密度：80kg/m ³
被覆材用留付材	仕様：①又は② ①直張 留付材（1）、留付材（2）を使用 留付材（1） 材料：固定ピン 材質：鉄線 (JIS G 3532) 又はステンレス鋼線 (JIS G 4309) 寸法：胴部径1.6mm以上、長さ25mm以上 間隔：500mm以下 留付材（2） 材料：くぎ 材質：鉄線 (JIS G 3532) 又はステンレス鋼線 (JIS G 4309) 寸法：胴部径1.05mm以上、長さ50mm以上 間隔：端部80mm以下、一般部210mm以下 又は 材料：くぎ (JIS A 5508) 寸法：N50以上 間隔：端部80mm以下、一般部210mm以下 ②浮かし張補強材 (A) 及び浮かし張補強材 (B) 留付材（1）、留付材（2）、留付材（3）を使用 留付材（1） 材料：固定ピン 材質：鉄線 (JIS G 3532) 又はステンレス鋼線 (JIS G 4309) 寸法：胴部径1.6mm以上、長さ25mm以上 間隔：500mm以下 留付材（2） 材料：くぎ 材質：鉄線 (JIS G 3532) 又はステンレス鋼線 (JIS G 4309) 寸法：胴部径1.05mm以上、長さ50mm以上 間隔：端部80mm以下、一般部210mm以下、スペーサ部1000mm以下 又は 材料：くぎ (JIS A 5508) 寸法：N50以上 間隔：端部80mm以下、一般部210mm以下、スペーサ部1000mm以下 留付材（3） 材料：十字穴付きタッピンねじ (JIS B 1122) 又は ドリリングタッピンねじ (JIS B 1125) 寸法：呼び径3.5mm以上、長さ35mm以上 間隔：400mm以下

補強材	仕様：①又は② ①直張 材料：なし 寸法：なし 取付間隔：なし ②浮かし張補強材（A）及び浮かし張補強材（B） 材料：建築用鋼製下地材（JIS A 6517） 寸法： \square - 50×19×0.5mm以上 及び 材料：一般構造用圧延鋼材（JIS G 3101） 寸法：L - 50×50mm以上 間隔：1000mm以下
スペーサ	仕様：①、②又は③ ①直張 材料：なし 組成：なし 寸法：なし 取付間隔：なし ②浮かし張補強材（A）（図7に示す。） 材料：繊維混入けい酸カルシウム板 組成：けい酸カルシウム 75±10質量％ 無機系添加材 20±7質量％ （セメント、金属酸化物、金属水酸化物等） 寸法：高さ100mm以下、厚さ20mm以上 奥行き： $\left(\frac{\text{フランジ幅}-\text{ウェブ厚さ}}{2}\right) + 100\text{mm}$ 以下 取付間隔：1000mm以下 ③浮かし張補強材（B） 材料：繊維混入けい酸カルシウム板 組成：けい酸カルシウム 75±10質量％ 無機系添加材 20±7質量％ （セメント、金属酸化物、金属水酸化物） 無機繊維質 5±3質量％ （ガラス繊維、ロックウール） 寸法：高さ150mm以下、幅100mm以上、厚さ20mm以上 取付間隔：1000mm以下
裏打材	材料：繊維混入けい酸カルシウム板 組成：けい酸カルシウム 75±10質量％ 無機系添加材 20±7質量％ （セメント、金属酸化物、金属水酸化物） 無機繊維質 5±3質量％ （ガラス繊維、ロックウール） 寸法：幅75mm以上、厚さ35mm以上
裏打材用留付材	材料：十字穴付きタッピンねじ（JIS B 1122） 又は ドリリングタッピンねじ（JIS B 1125） 寸法：呼び径4.0mm以上、長さ50mm以上 間隔：400mm以下

つづき

<p>スペーサ用接着材</p>	<p>仕様：①又は② ①直張 材料：なし 塗布量：なし ②浮かし張補強材（A）及び浮かし張補強材（B） 材料：けい酸ナトリウム系 塗布量：100g/m²以上</p>
<p>接合部処理材</p>	<p>材料：セラミックファイバークラケット 密度：96±6kg/m³ 寸法：20×10×25mm</p>
<p>敷目板</p>	<p>材料：繊維混入けい酸カルシウム板 組成：けい酸カルシウム 75±10質量% 無機系添加材 20±7質量% （セメント、金属酸化物、金属水酸化物） 無機繊維質 5±3質量% （ガラス繊維、ロックウール） 寸法：幅100mm以上、厚さ15mm以上、長さ415mm以上</p>
<p>敷目板用留付材</p>	<p>材料：くぎ 材質：鉄線（JIS G 3532）又はステンレス鋼線（JIS G 4309） 寸法：胴部径1.05mm以上、長さ35mm以上 間隔：150mm以下 又は 材料：くぎ（JIS A 5508） 寸法：N35以上 間隔：150mm以下</p>

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図7に示す。

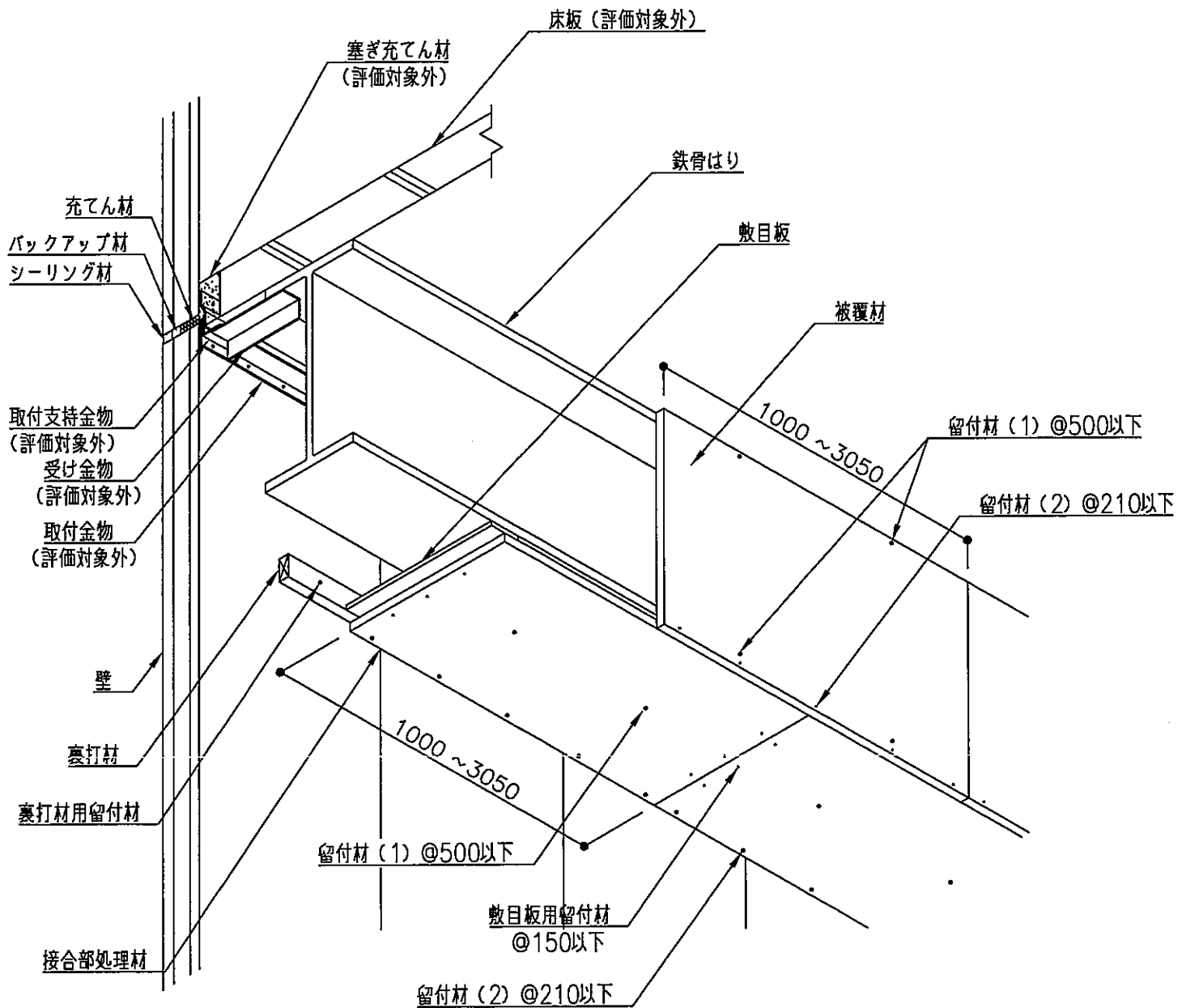


図1 構造説明図 (直張)

単位 mm

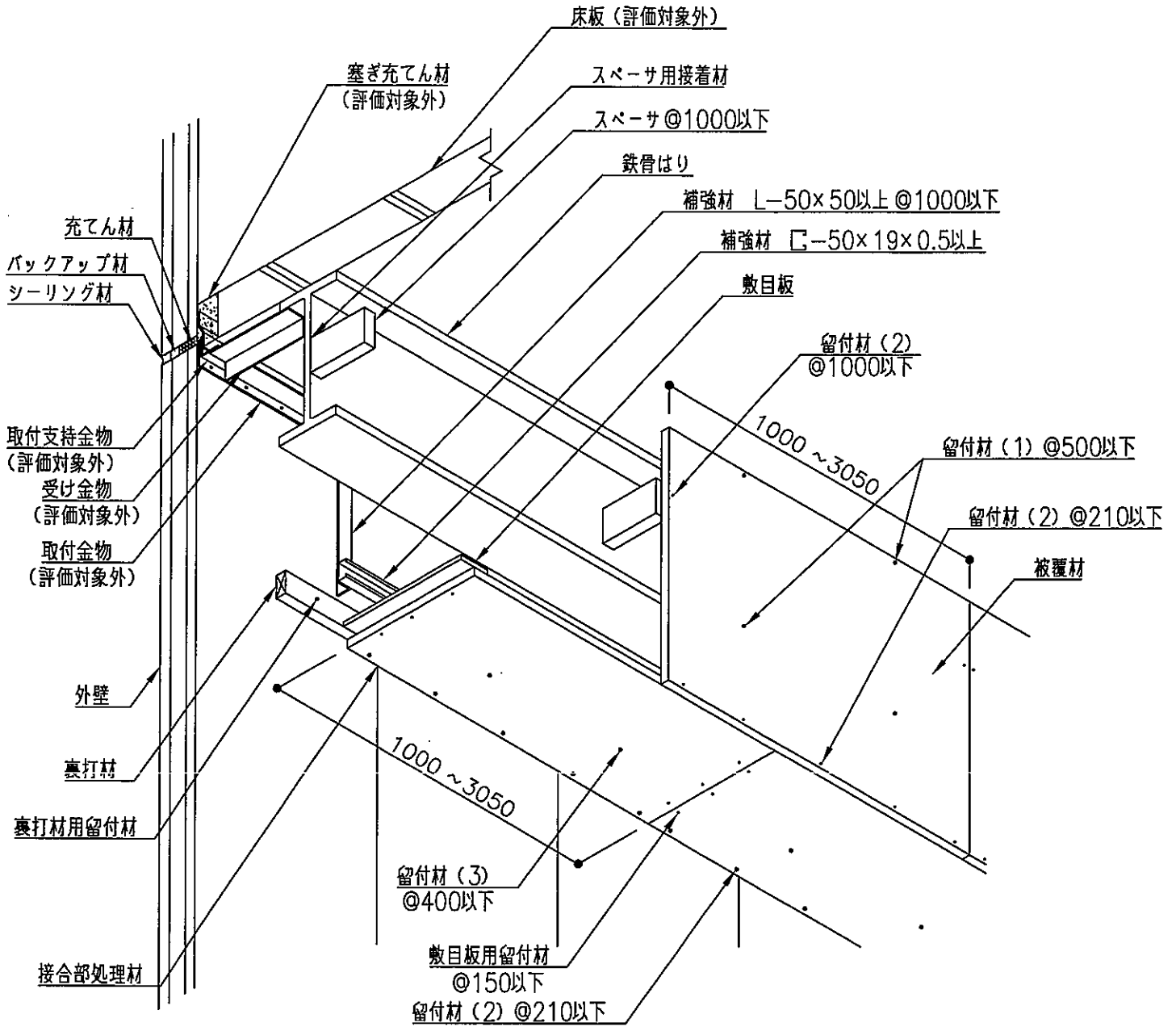


図2 構造説明図 (浮かし張補強材 (A))

単位 mm

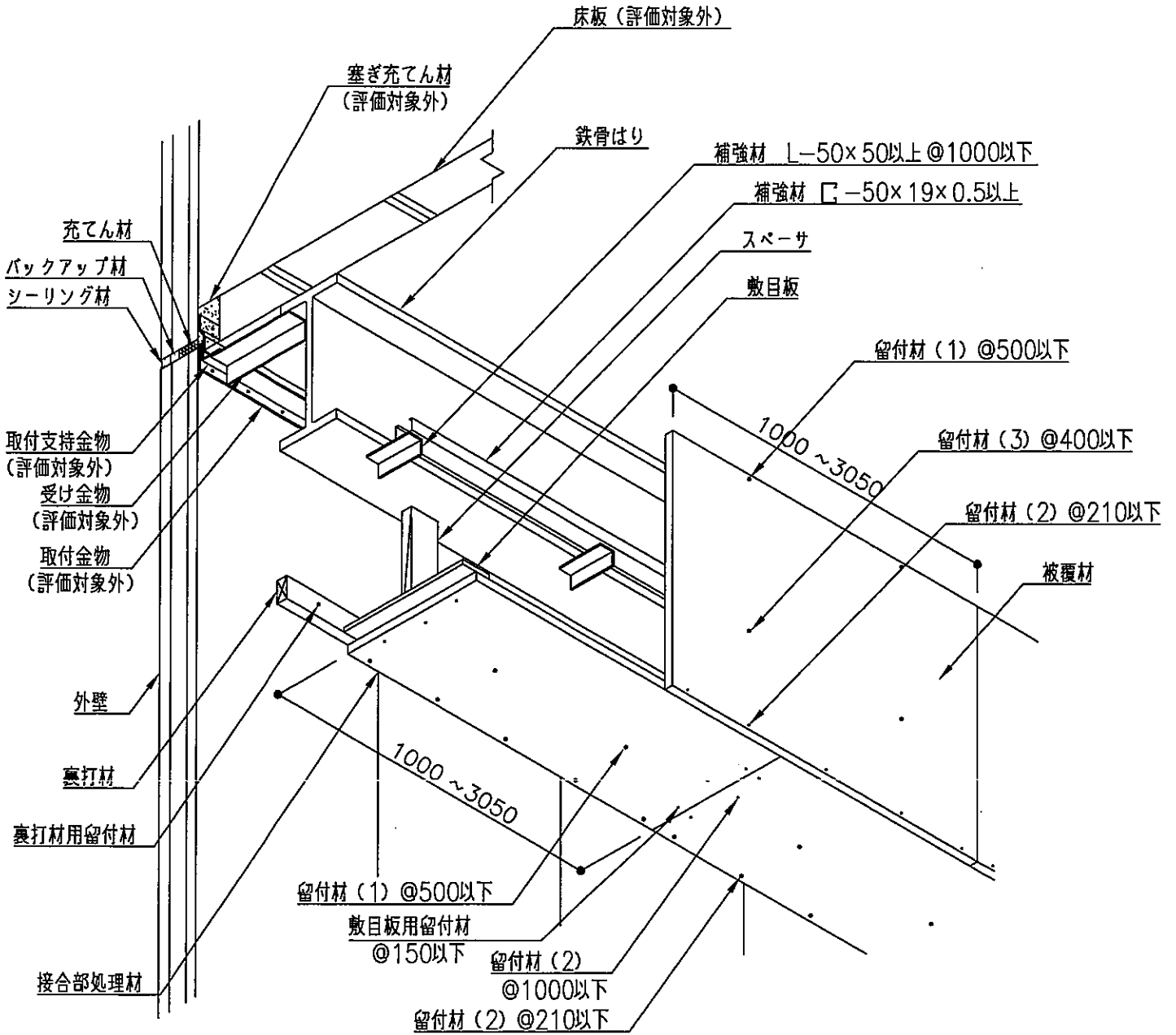


図3 構造説明図 (浮かし張補強材 (B))

単位 mm

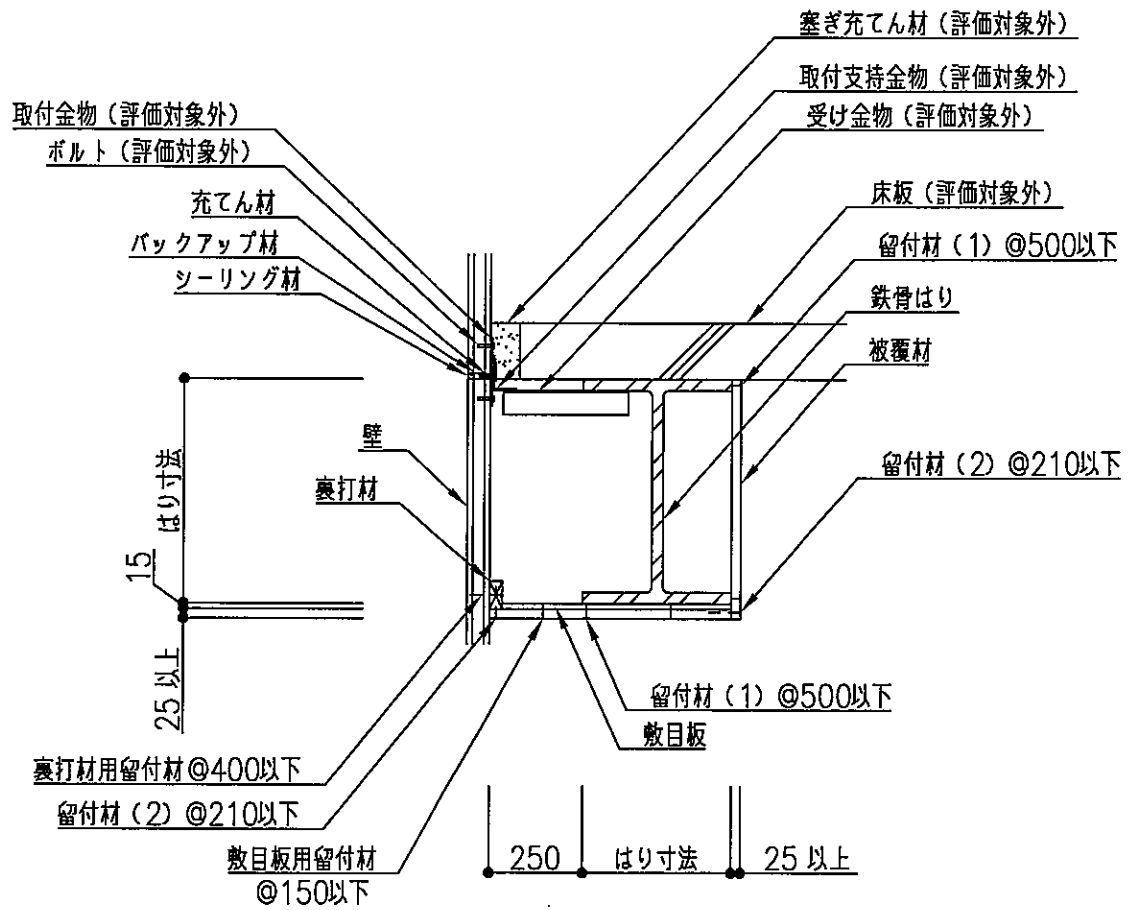


図4 構造説明図 (直張)

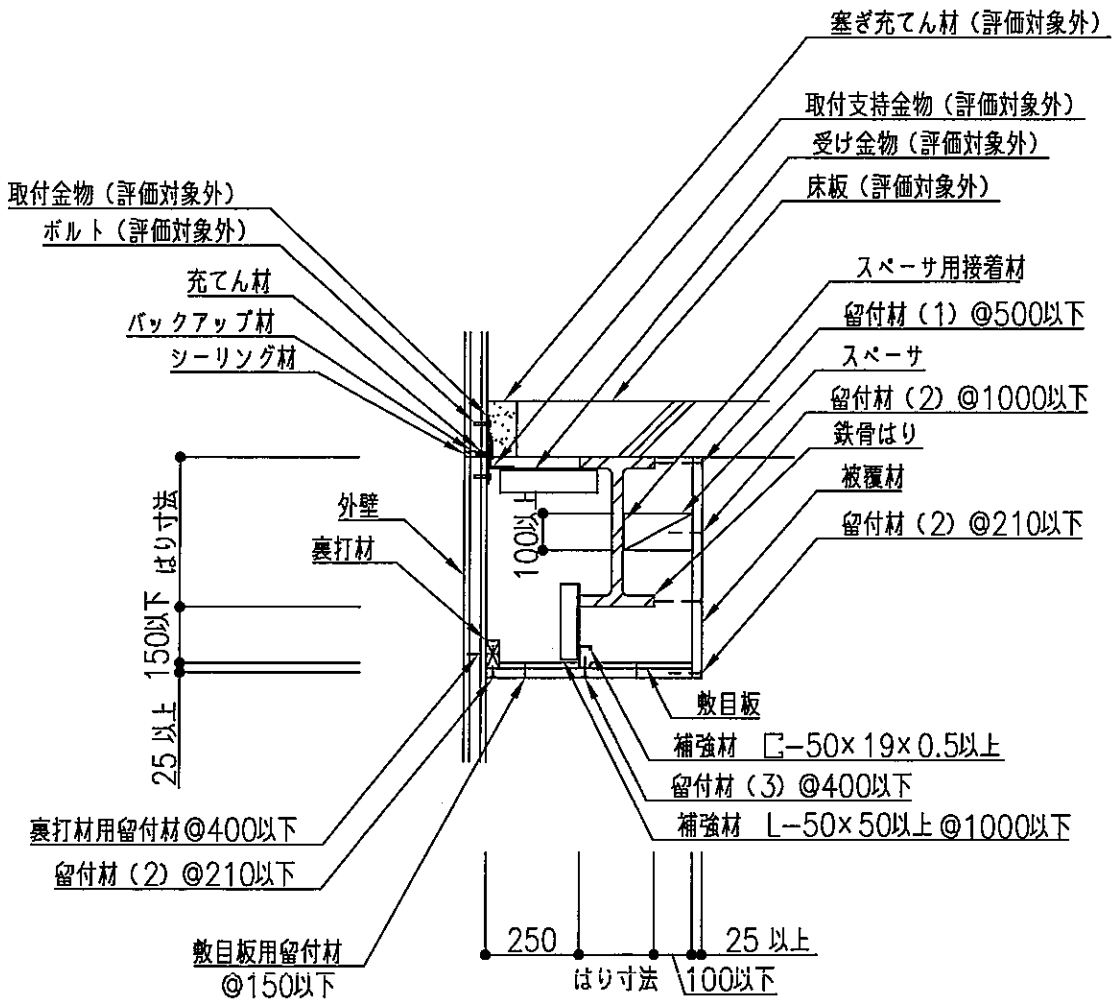


図5 構造説明図 (浮かし張補強材 (A))

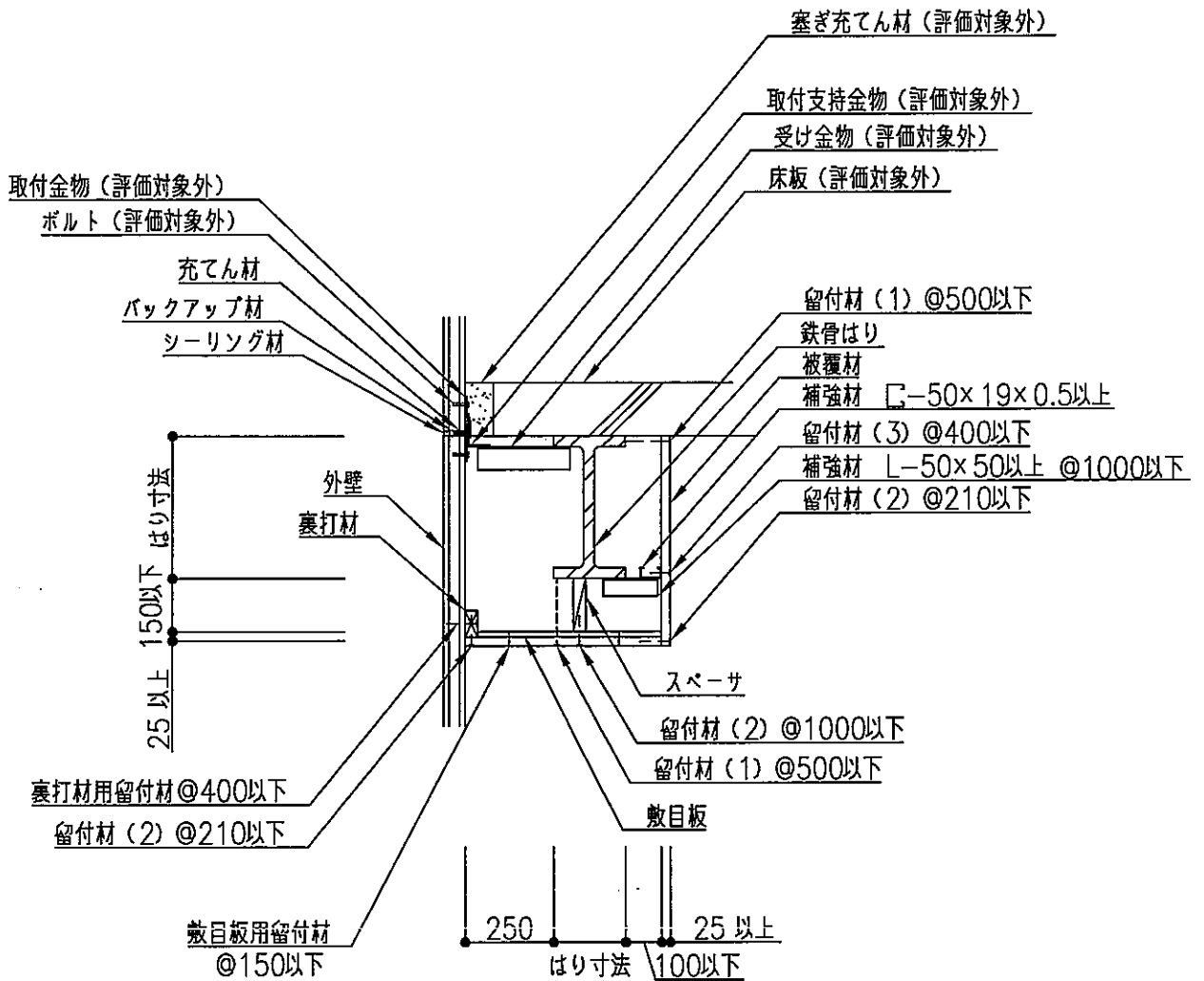


図6 構造説明図 (浮かし張補強材 (B))

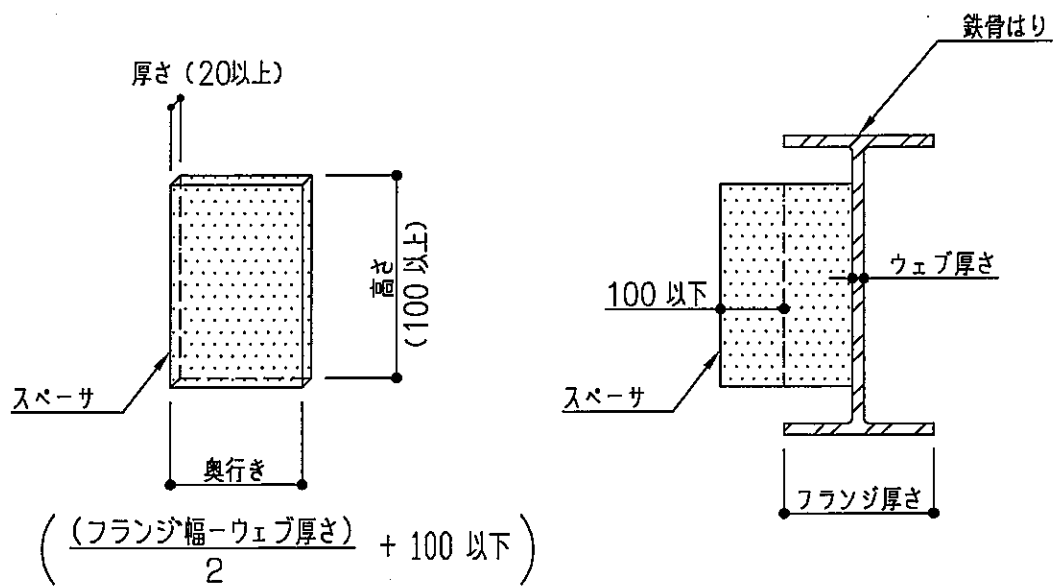


図7 構造説明図 (浮かし張補強材 (A) のスパーサ寸法)

6. 施工方法

施工図を図8～図10に示す。

施工は以下の手順で行う。

(1) 壁（押出成形セメント板）工事

- 1) 壁を鉄骨はりの外側に建て込み、取付金物を用い、ボルト及びナットで固定する。
- 2) 壁の目地部には、所定寸法の充てん材及びバックアップ材を挿入し、表面には、シーリング材を充てんする。

(2) 被覆材（繊維混入けい酸カルシウム板）工事

- 1) 鉄骨はりの清掃
施工に先立ち、鉄骨面は施工に支障のないように清掃する。
- 2) 被覆材の割付
被覆材の割付は、設計図、施工図及び鉄骨寸法等により割付を行う。
- 3) 被覆材の切断
被覆材の切断は、割付により裁断機器を用いて切断を行う。
- 4) 裏打材の取付
裏打材は割付により、裁断機器を用い切断し、壁にタッピンねじで固定する。
- 5) 敷目板は予め底板の一方に釘にて取り付けておき、底板を側板と壁の間に差し込む。

6) 被覆材の取付

①直張仕様（図8に示す。）

被覆材は側板と底板の目地部が揃わないように配置し、鉄骨フランジ部に固定ピンで、被覆材（底面）の木口にくぎで取付ける。

②浮かし張補強材（A）仕様（図9に示す。）

- a. 補強材を鉄骨フランジの下部に溶接で取付ける。
- b. 被覆材は側板と底板の目地部が揃わないように配置し、側板はスペーサ部にくぎで、鉄骨フランジ部は固定ピンで、更に底板被覆材の木口にくぎで取付ける。
底板は裏打材にくぎで、補強材にタッピンねじで取付ける。

③浮かし張補強材（B）仕様（図10に示す。）

- a. 補強材を鉄骨フランジ部に溶接で取付ける。
- b. 被覆材は側面と底面の目地部が揃わないように配置し、側板は補強材にタッピンねじで、鉄骨フランジ部は固定ピンで、更に底板被覆材の木口にくぎで取付ける。
底板は裏打材及びスペーサはくぎで、鉄骨フランジ部は固定ピンで取付ける。

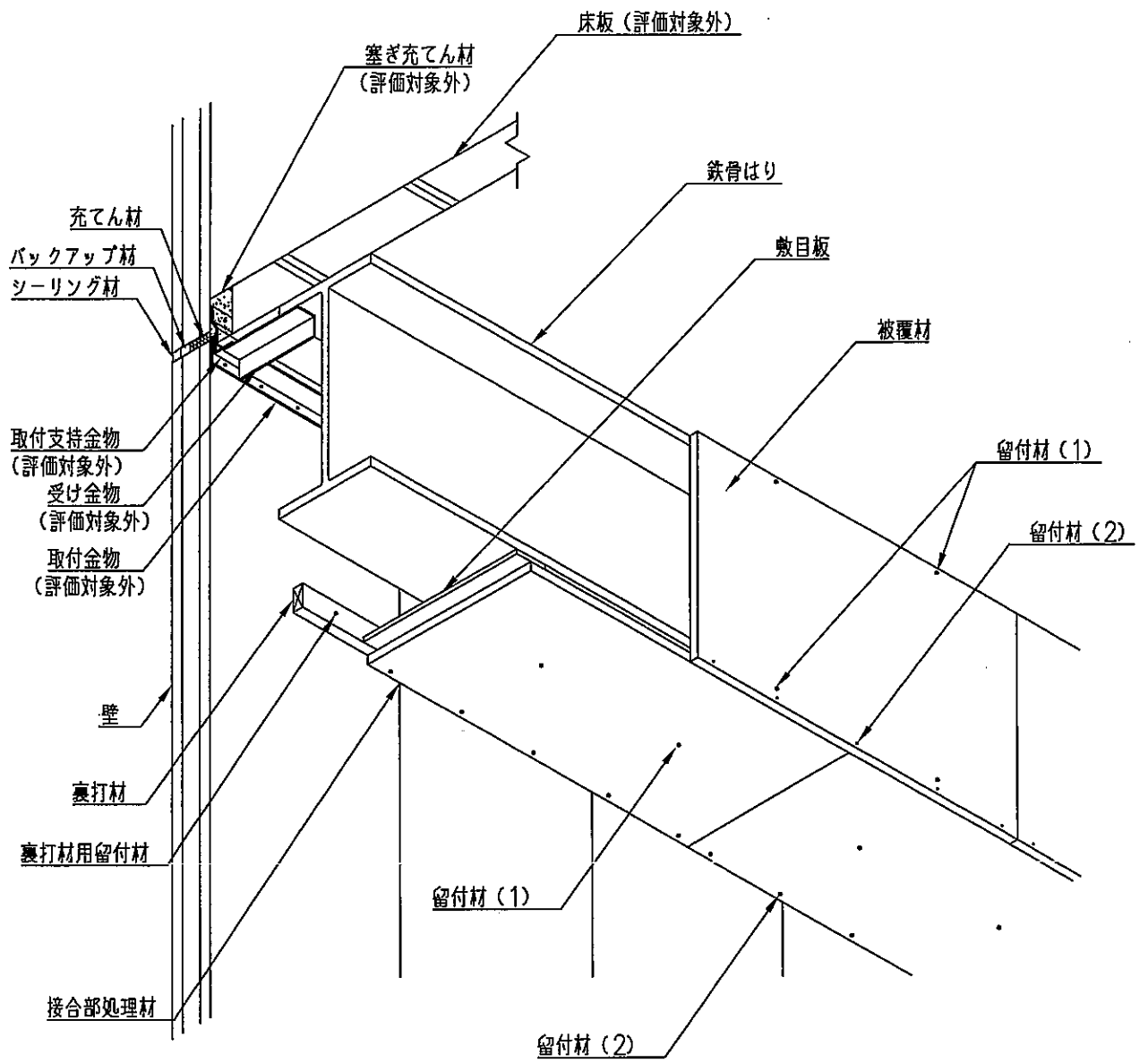


図8 施工図 (直張)

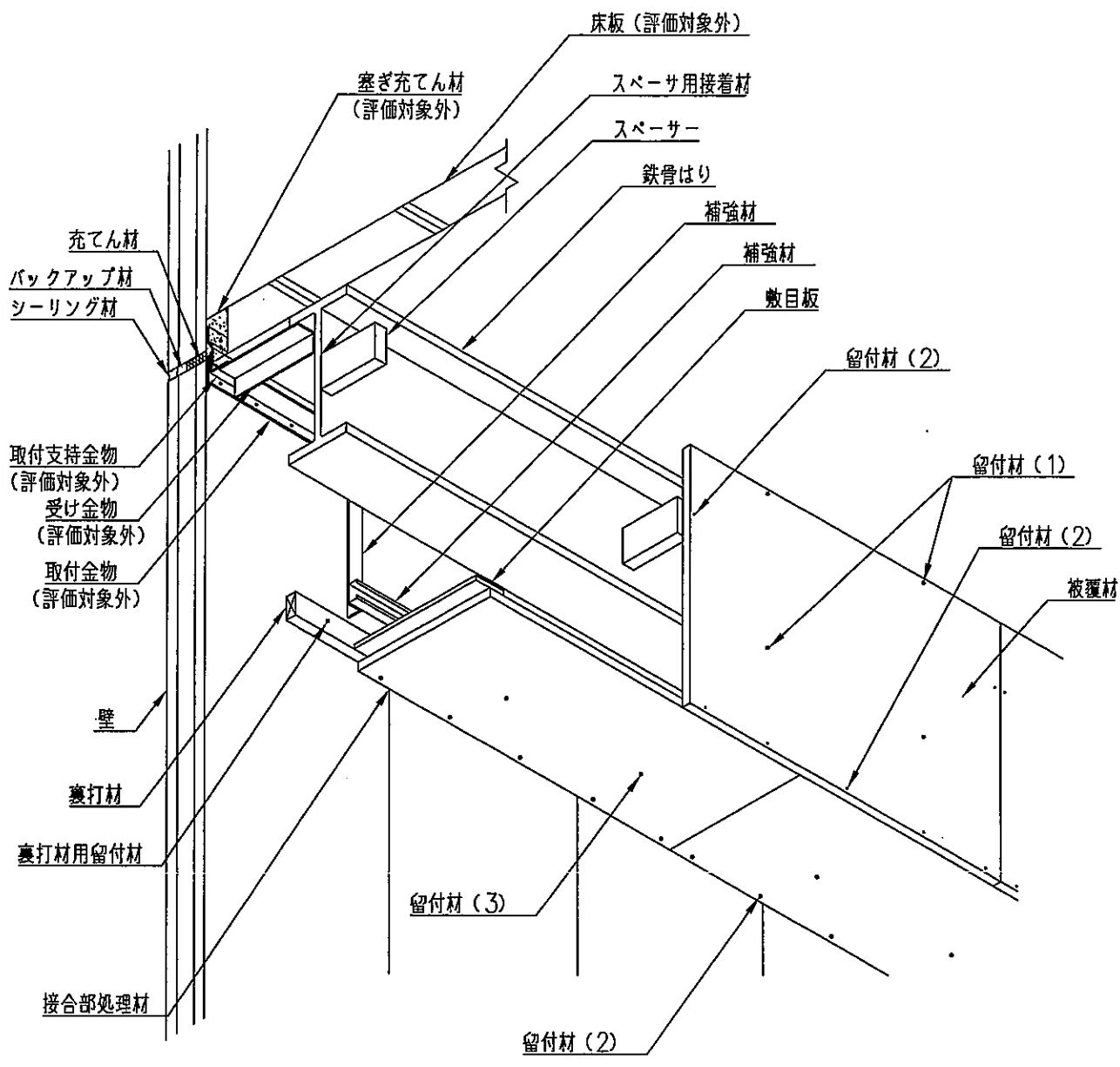


図9 施工図 (浮かし張補強材 (A))

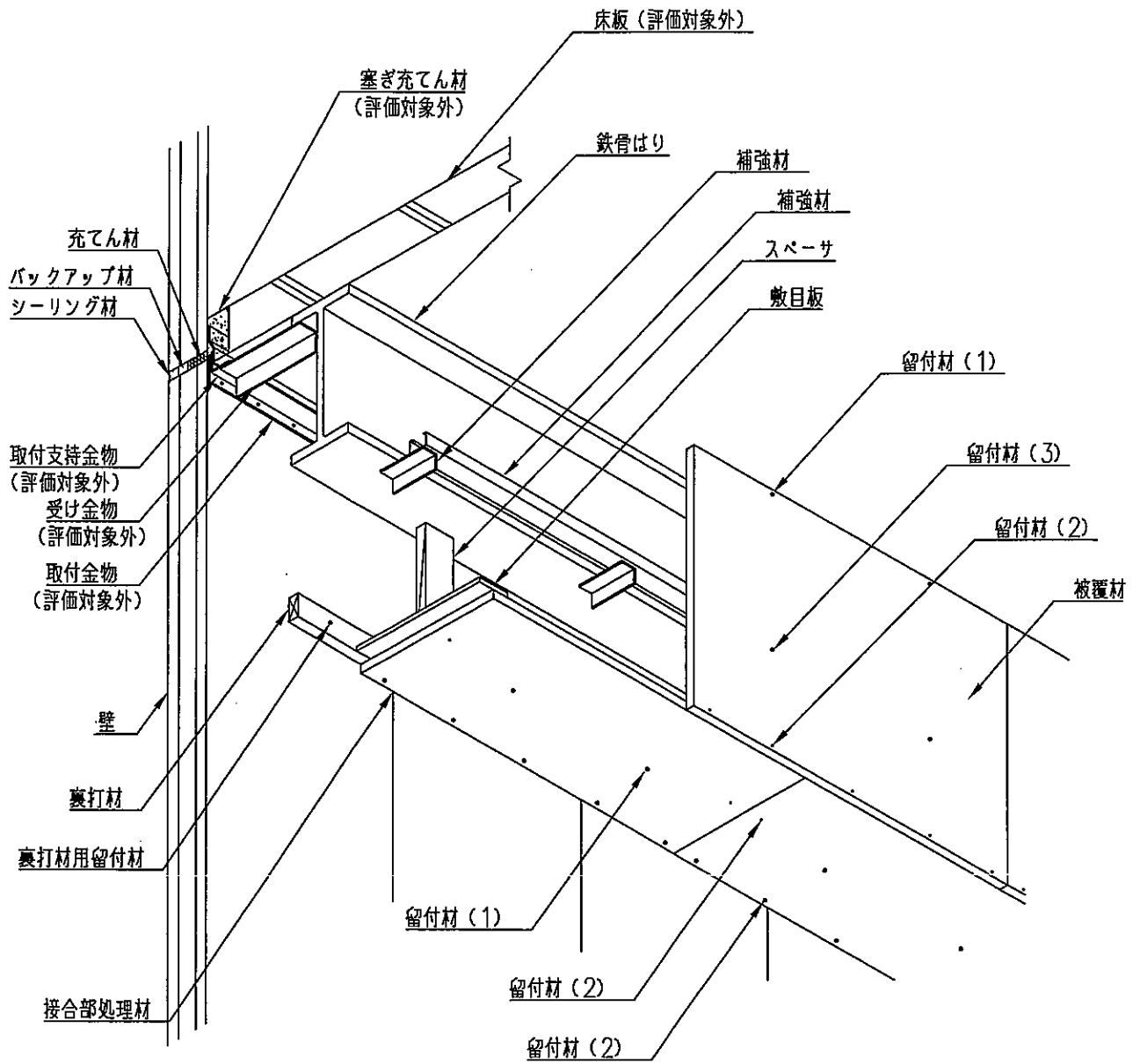


図10 施工図 (浮かし張補強材 (B))